2015.02.12　医療機関における勤務環境改善研修会

WLBの推進

～働き続けられる環境への努力～

一般財団法人甲南会
甲南加古川病院
元看護部長　山田鈴子

病院の沿革

昭和16年8月	加古川第２陸軍病院
昭和20年12月	厚生省に移管「国立神野病院」として発足
昭和25年1月	国立加古川療養所に改称
昭和55年4月	国立加古川病院に改称
平成12年12月	国立病院、療養所の再編成計画により財団法人甲南病院に経営移譲され「財団法人甲南病院　加古川病院」として発足
平成14年3月	血液浄化センター開棟
平成17年4月	リウマチ膠原病センター開設
平成24年4月	一般財団法人甲南会 甲南加古川病院

甲南加古川病院

病院紹介

- 病床数：稼働病床　170（7看護単位2013.7.1～）
- 診療科：リウマチ科・内科・外科・整形外科
  ・腎臓科・放射線科・耳鼻科・皮膚科

- 外来患者数：389人／日（単価15400）
- 手術件数：49.9件／月
- 病床稼働率：82%　　（単価58400）
- 在院日数
  ：DPC対応一般病棟　10.8日　（看護必要度　24%）
  ：障害者加算一般病棟　8.3日（障害者認定　81.6%）
- 看護施設基準　7：1（85床）　10：1（85床）
- 急性期看護補助体制加算　50：1
- 看護職員夜勤配置加算
- 職員数　常勤　235名　非常勤　20名
- 　　内　看護師　125名　看護補助者数　16名

H25度データ

甲南加古川病院

病院の特徴

リウマチ膠原病センター

- 内科、整形外科のリウマチ指導医、専門医、9名が連携して総合的な医療を提供。西日本におけるリウマチ膠原病診療の拠点としての役割を担っている。

血液浄化センター

- 平成14年3月、地域の要望を受け開設。透析患者の入院治療が可能な、地域では数少ない病院。

離職率の推移

	全国平均	加古川病院	全国平均 新人	新人 退職者数
2008年	11.9%	12.9%	8.9%	27.3% （2人）
2009年	11.2%	11.9%	8.6%	0
2010年	11.0%	10.6%	8.1%	0
2011年	10.9%	5.7%	7.5%	11.1% （1人）
2012年	11.0%	13.4%	7.9%	30.0% （3人）
2013年	%	10.1%	%	0

看護師の採用状況

甲南加古川病院

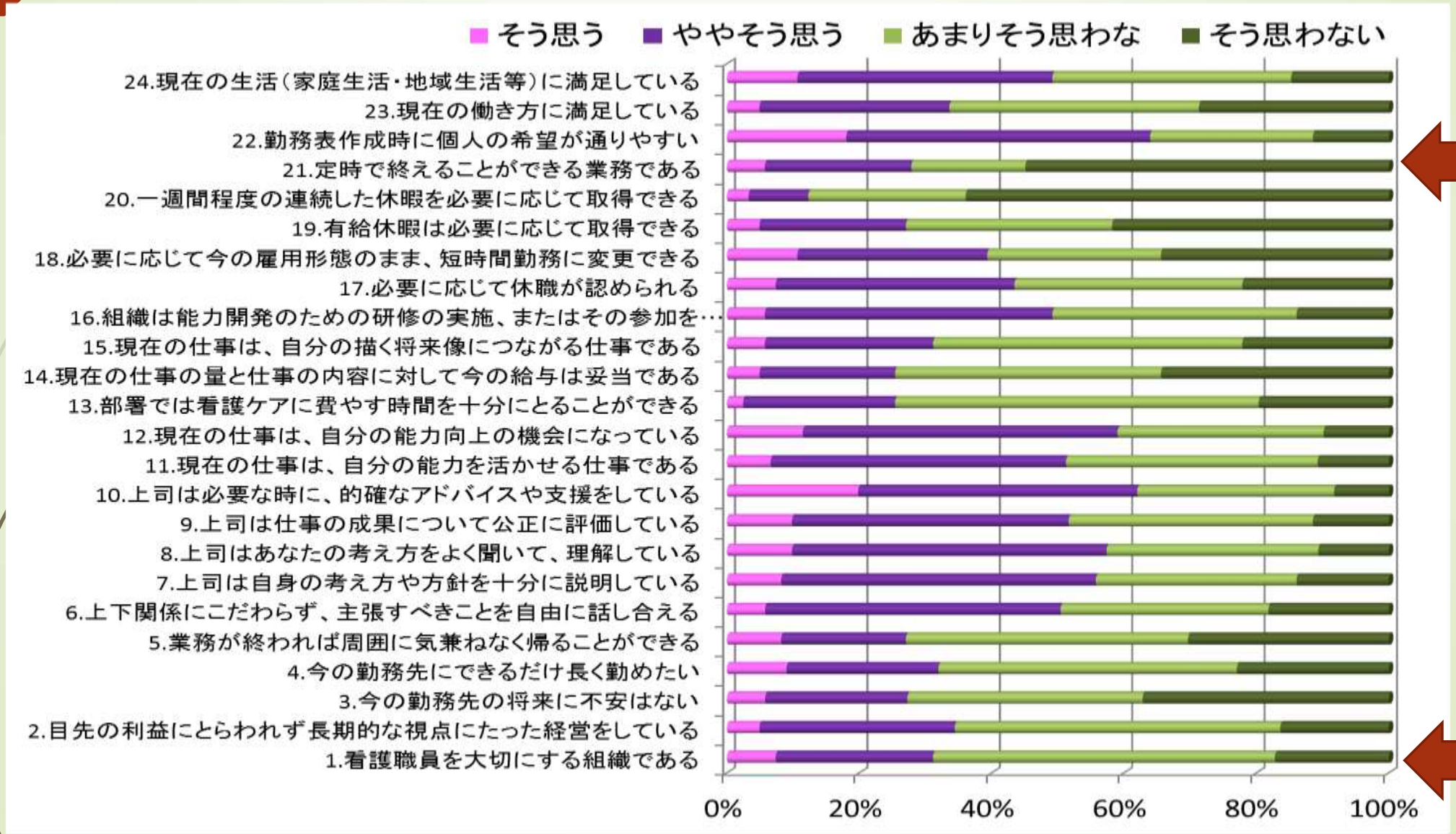
ワーク・ライフ・バランス（ＷＬＢ）推進事業参加への動機と課題

- 周辺の医療情勢（官民統合、新築移転、建替え、7対1看護配置など）によって就職応募者数が減少し、
- リウマチ膠原病と透析以外の診療科がない⇒急性期対応ではない
- 退職率が上昇している（2007年8.76%）⇒将来の不安など
- 家庭と育児の両立で退職する人が出始めた→核家族世帯
- 三交代より二交代にシフト→働く環境の改善
- **看護師の流出防止と魅力ある病院への工夫が必要であり、客観的なデータで考えたいと思った。**

日本看護協会WLBのワークショップ参加まで

年度	主な活動内容
H19年	二交代制勤務の試行 院内保育所の休日対応　1回/月
H20年	夜勤専従の採用 二交替勤務への以降 休日保育回数の追加
H21年	病児の保育室の準備
H22年	部署間の応援体制 短時間正職員制度導入 **日本看護協会のWLBﾜｰｸｼｮｯﾌﾟへの参加検討**
H23年	**日本看護協会のWLBﾜｰｸｼｮｯﾌﾟへの参加** 看護協会インデックス調査実施 WLB推進チーム結成
H24年	サービス残業解消への取り組み **ひょうご仕事と生活のバランス企業賞受賞**
H25年	WLB取り組みを看護部から病院全体へ 長期休暇へのアンケート調査 **日本看護協会看護ザウルス賞受賞**

平成23年度インデックス調査結果
～職場や仕事について～



H24年
H23のインデックス調査の結果を受けて

- H23.6インデックス調査参加
- インデック調査結果報告会を計10回開催し、周知徹底を図った。
- 職員135名中113名（83%）が参加した。
- その際に「看護職員を大切にする組織である」に関してアンケートを実施した。

報告会の模様

アンケートの結果から

- アンケート内容
  1.WLBの主旨は理解できましたか？
  2.「看護職員を大切にする組織である」に関して
  そう思う・そう思わないと感じる時はどんな時ですか？
- 132件の意見が寄せられ、回答をKJ法でカテゴリー分類した。
  ①サービス残業感がある・・
  ②長期休暇の取り方に疑問
  ③教育に関すること
  ④病休・育休への配慮
  ⑤給与
  ⑥看護に専念できないのが辛い

兵庫県看護協会からの支援者の助言を受けて、取り組む内容を「サービス残業感の払拭」に絞った

残業申請ルールの徹底と申請
（サービス残業感の払拭）

残業申請のルール

残業が予測される時

↓

師長に残業理由を報告

↓

師長の指示で残業

↓

残業した時間を申請書に記入し提出する

看護師長会で共通認識

- ルールの再確認
- 残業になる場合は職員の申請を受ける。
- 必要時は教育の必要があるが、申請を躊躇するような指導は避ける。
- H25年2月上旬にアンケート実施

＊看護師を大切にする組織と思うとき

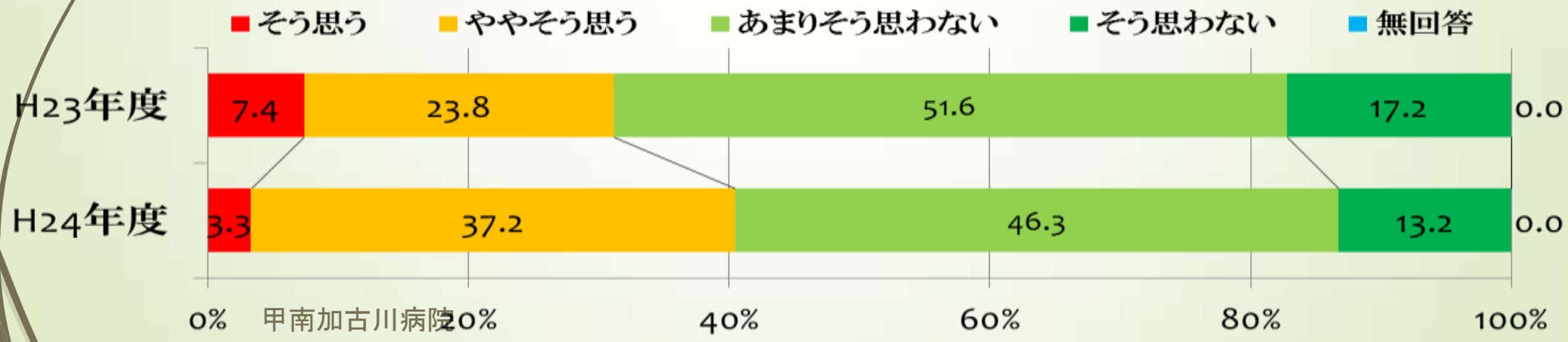
＊サービス残業について

インデックス調査で改善した項目

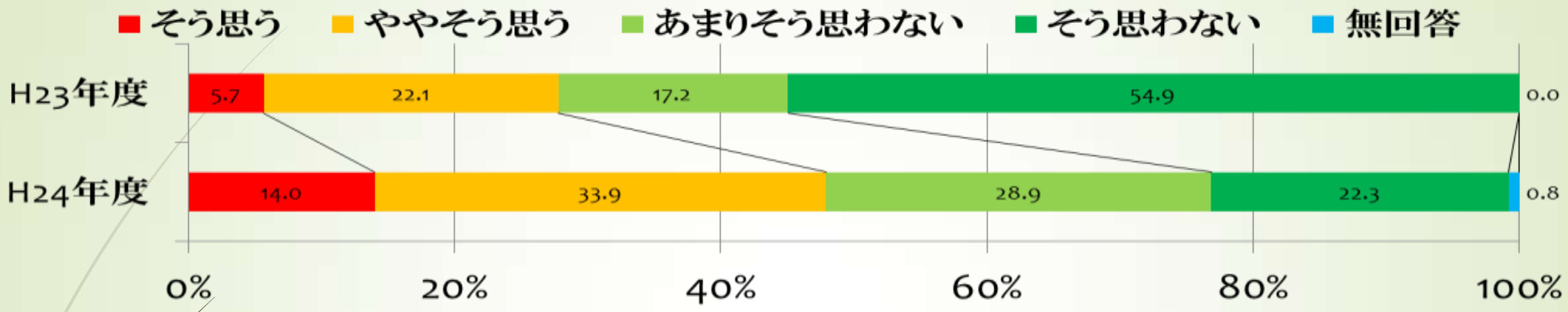
実際の残業時間と申請した残業時間の差

	H23年度	H24年度
申請残業時間/1人/月	220分/人	303分/人
調査で回答した時間	826分/人	262分/人
乖離時間	606分	▲41分

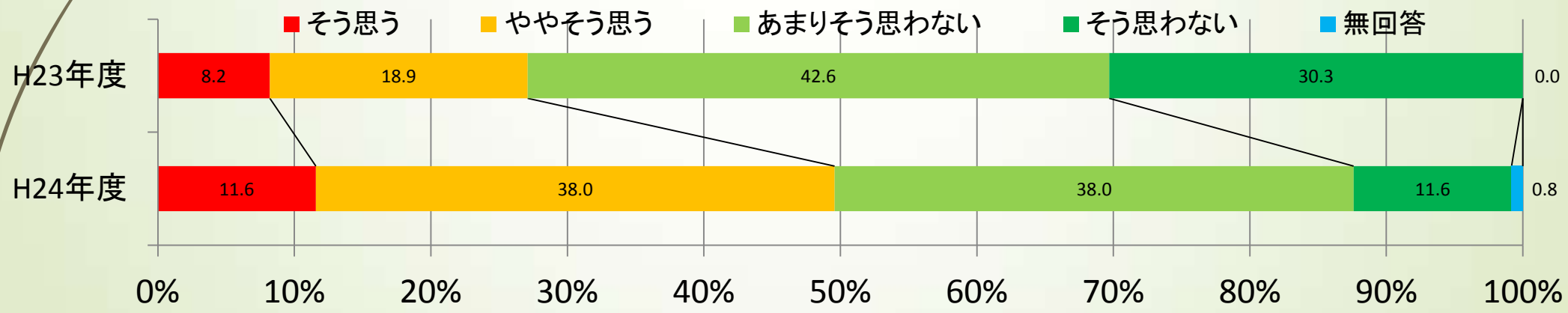
1.看護職員を大切にする組織である・・・・・・（30%）⇒40%↑



21.定時で終えることができる業務である



5.業務が終われば周囲に気兼ねなく帰ることができる



WLB推進チームに
H24年9月他部門が参加した！

- 薬剤部に産前休暇職員が相次いだ。
- WLB推進への参加を呼び掛けた。
- 副院長、診療部長、事務部長、薬剤部長が参加した。
- 診療部長が甲南会の職員広報誌に推進チームを紹介した。

KONAN

一般財団法人甲南会　職員用広報誌　No.314

2012.104

【基本理念】

人類愛の精神に基づき、あらゆる点において

病人を本位とした「悩める病人の為の病院たらん」

ワークライフバランス

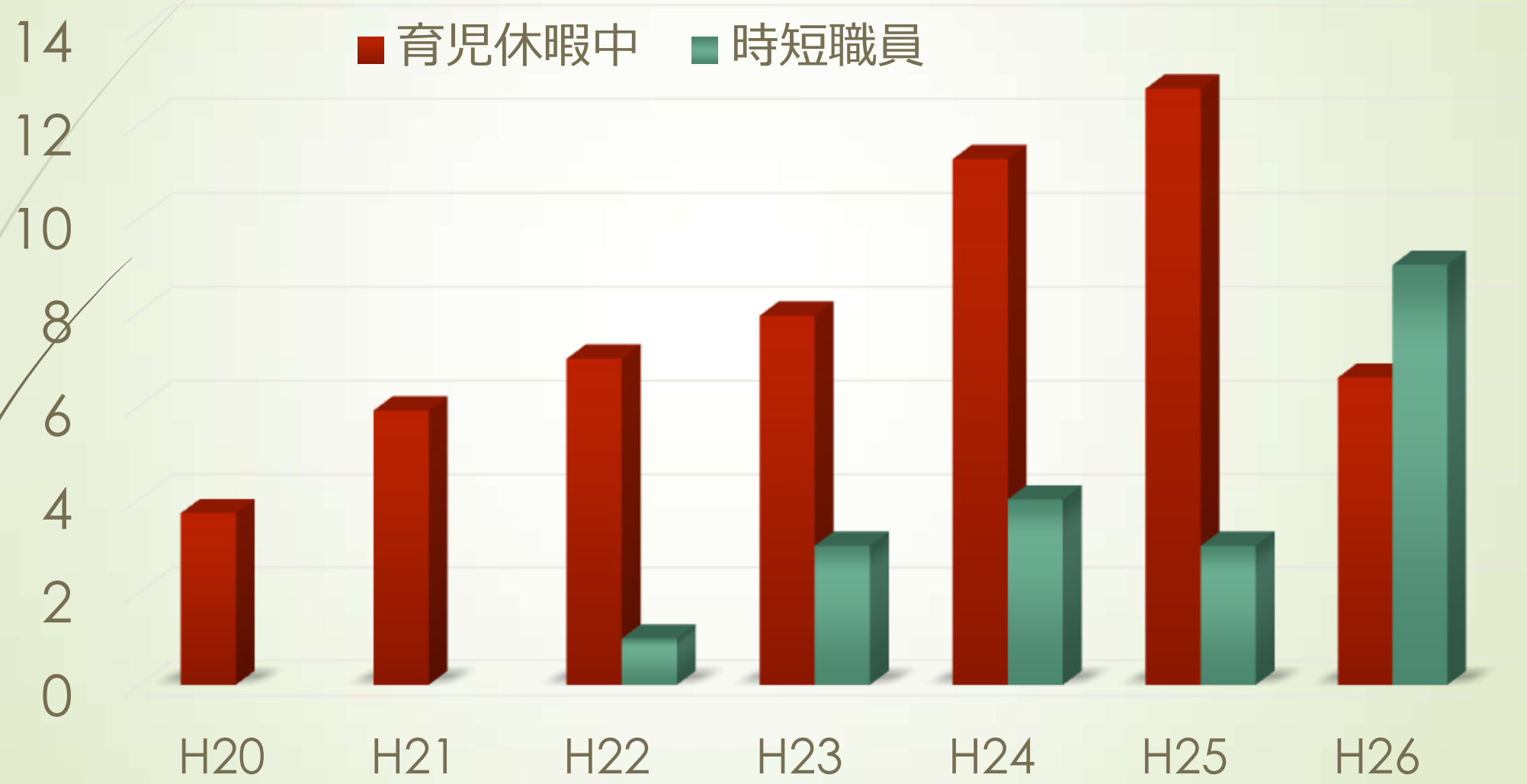
～CHANGE！JAPAN～

甲南加古川病院

診療部長　吉原　真結

甲南加古川病院

産前産後・育児休暇中職員数/月平均



H25年の取り組み

時短利用者と夜勤免除の増加

↓

カバーする職員の負担増加

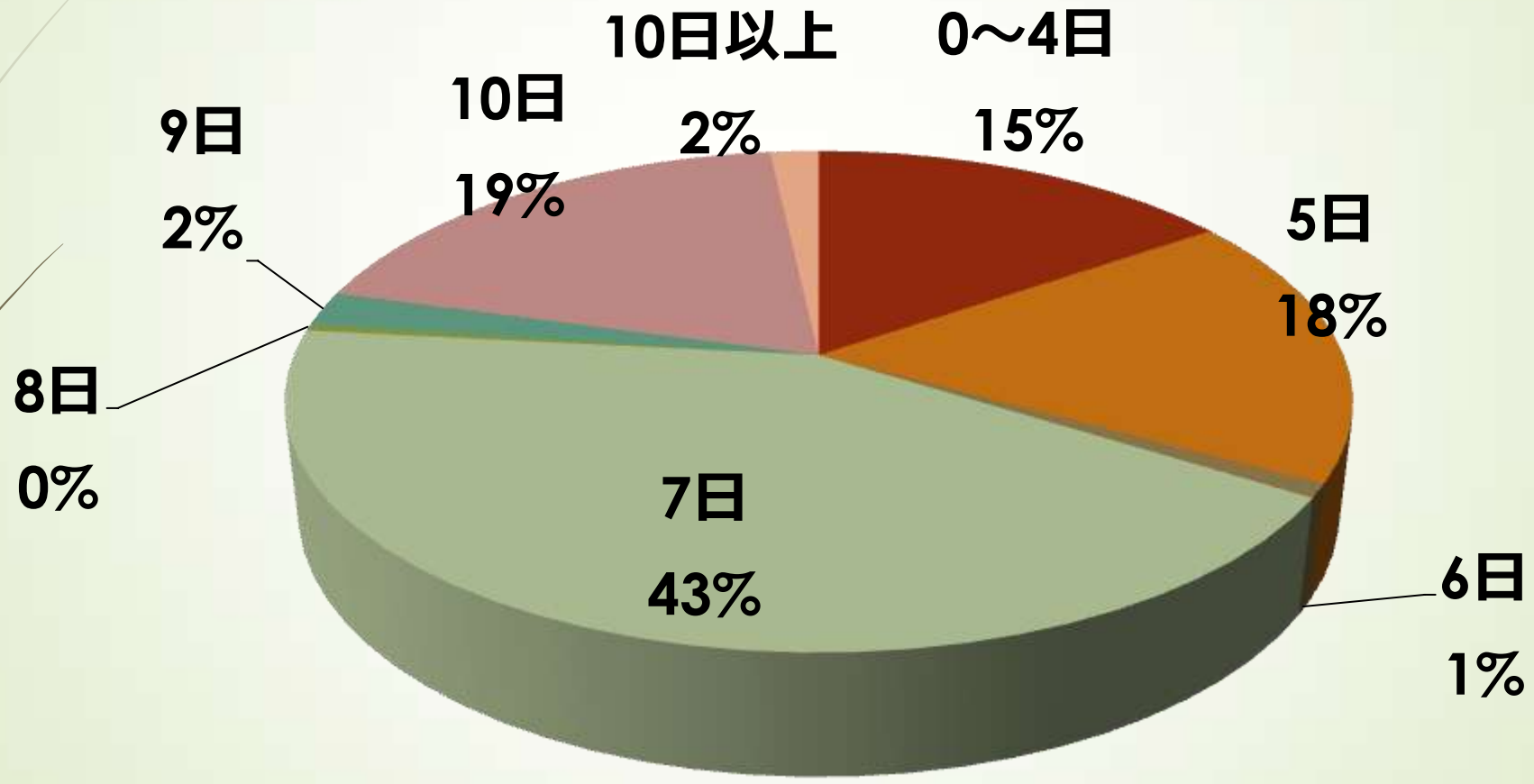
↓

全職員の満足度を上げるための対策が必要

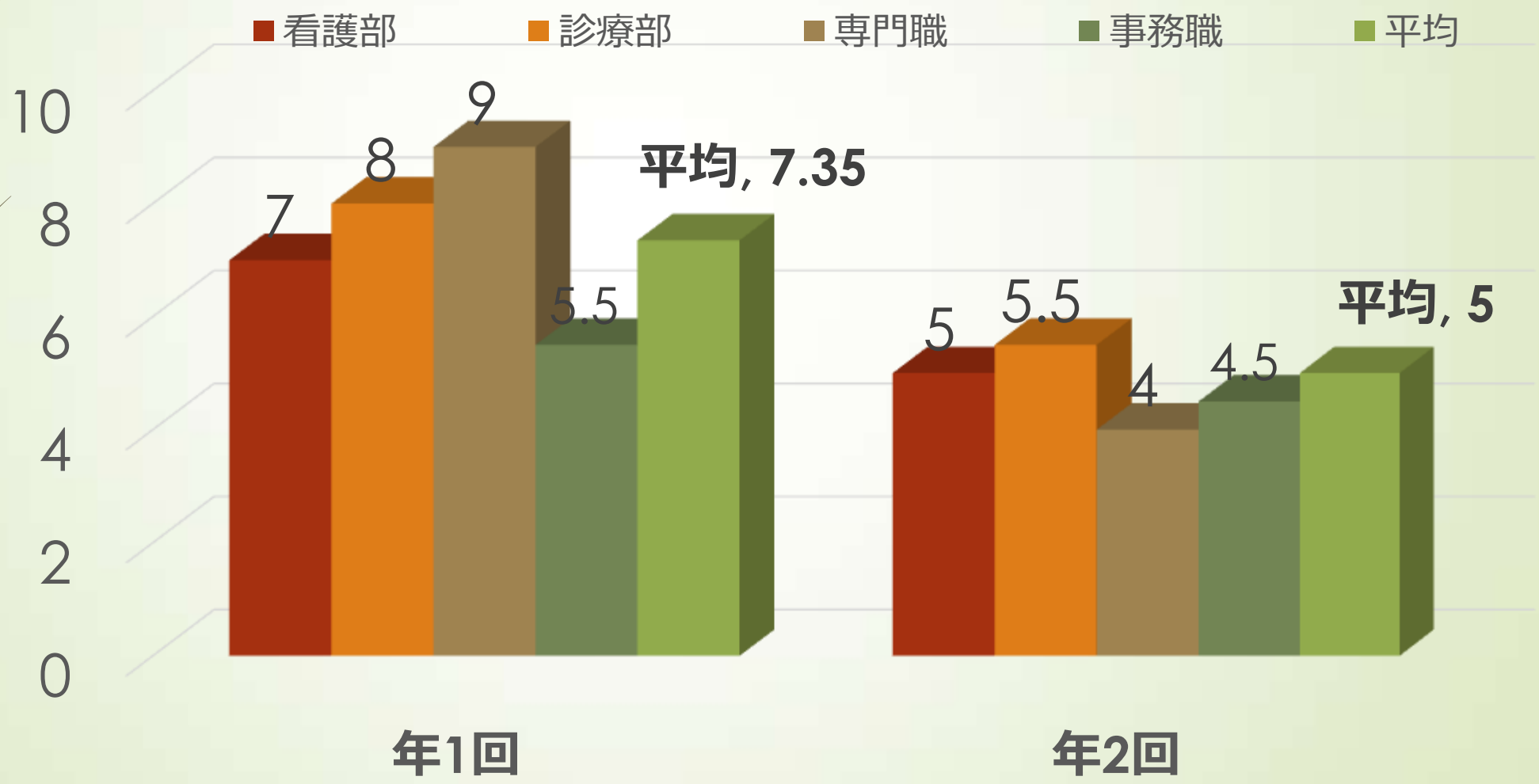
↓

長期休暇に関するアンケートの実施（平成25年11月）

あなたにとって長期休暇とは何日ですか？



長期休暇のとり方は？



H26年度の取り組み

長期休暇が取れるように

- 年休の消化率　平成２５年度　62.5%　平成２６年度　57.5%(２月予定)
- 渡航状況

  H25年度　31人　156日で平均５日

  H26年度　18人　114人で平均６日(今年度は結婚休暇が多かった)

フレックスタイム？のスタート

- 日勤は通勤の都合で時短、夜勤は１６時間可能と時短職員から申し出があり→人事部、労使協議会で了解を得た。２６年７月より導入７名中６名が利用

業務の応援体制

- 次のスライド参照

職員の変化が見えてきた

看護部に17名の育休・時短者をどうカバーするか？

➡応援体制

- 手術室の看護師　手術のない日

  透析室へ、ペイン外来へ、中央採血室へ

  病棟の入浴介助へ、朝の滅菌物の回収

- 外来の看護師　診察窓口が少ない時

  病棟の入浴介助へ、透析室のリネン交換へ

➡他部門からの応援体制

- リハビリの送迎は、必ずPT・OTで実施
- 検査課の助手が透析室へ応援へ
- 維持化の職員が退院明細書の配布説明
- 病棟及び中央採血室の検体の回収は、

  中央検査部で実施

- たまには、中央放射線部の技師が患者の送迎を実施

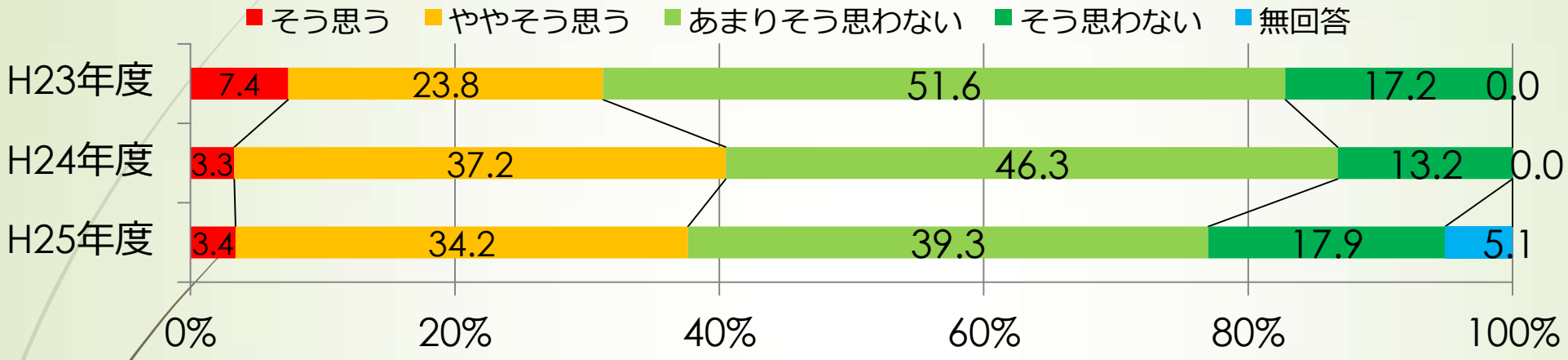
この影には事務部長の計らいが・・・・。

応援体制による負担軽減

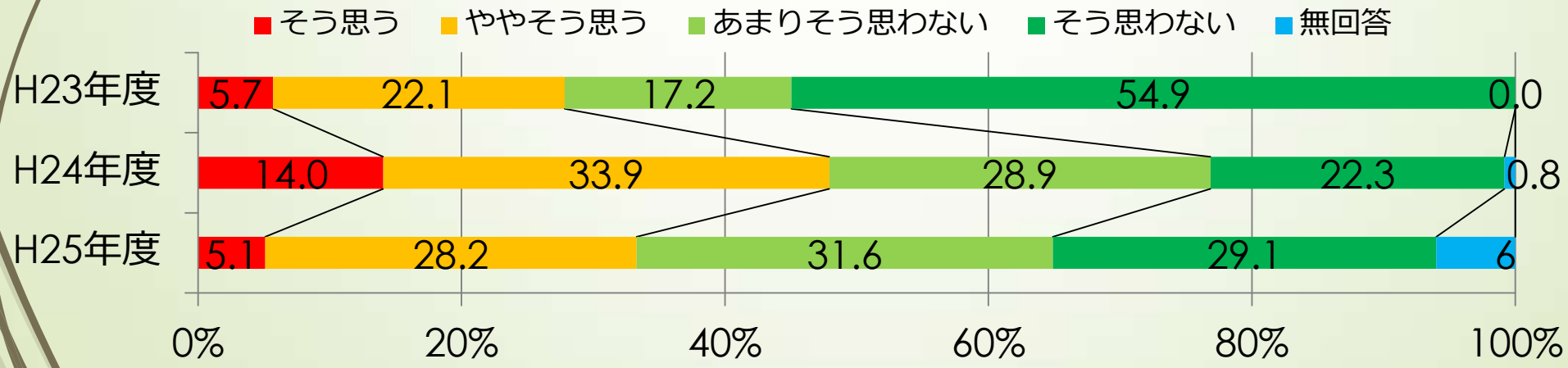
応援部署	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
外来	東2 15時以降	東2 15時以降	東2 15時以降		PM 東2点滴室
手術室	血液浄化		血液浄化	AM 東2点滴室	
東3病棟	血液浄化		血液浄化		血液浄化
西２病棟				PM 東2点滴室	

インデックス調査　3年間の比較　①

1.看護職員を大切にする組織である。

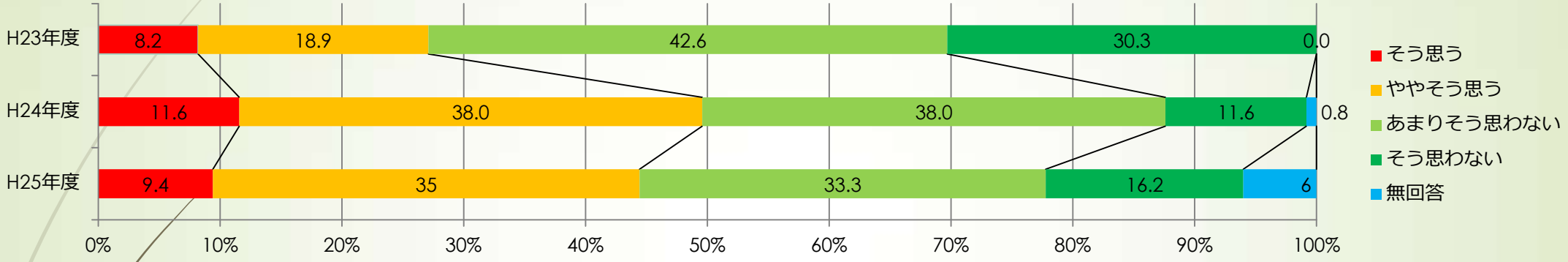


21.定時で終えることができる業務である。

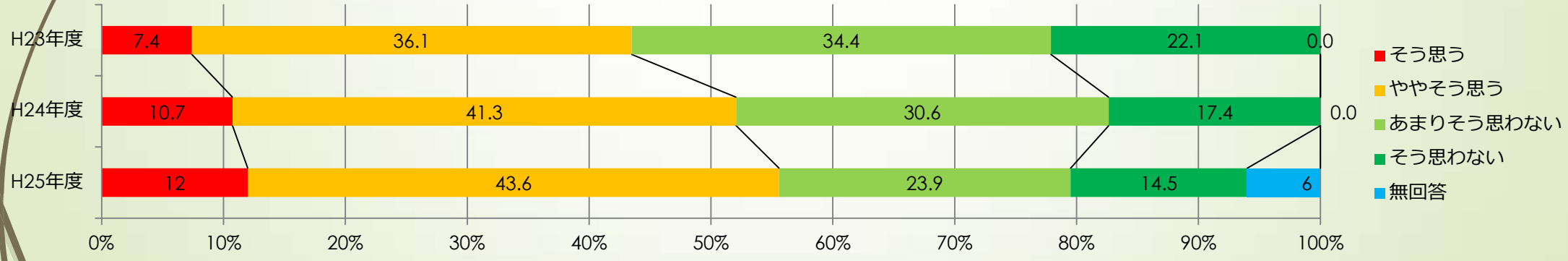


インデックス調査　3年間の比較　②

5.業務が終われば周囲に気兼ねなく帰ることができる。



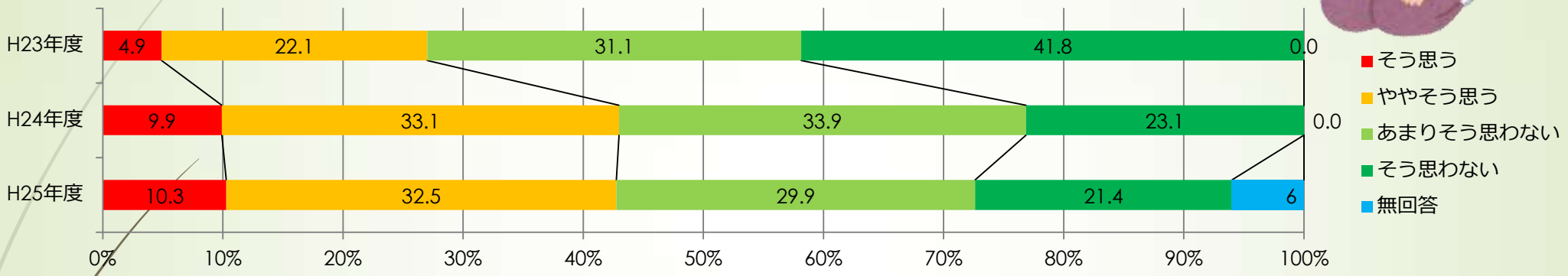
17.必要に応じて休職が認められる。



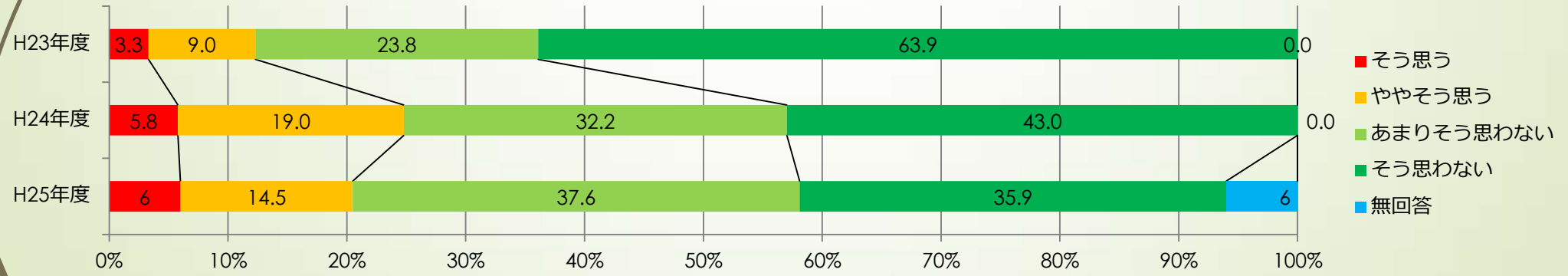
インデックス調査　3年間の比較　③

休暇に関する調査結果は

19.有給休暇は必要に応じて取得できる。



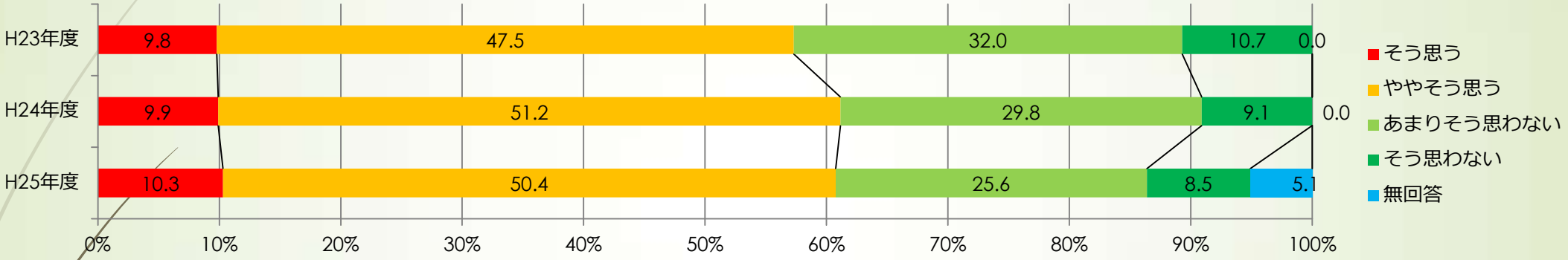
20.一週間程度の連続した休暇を必要に応じて取得できる。



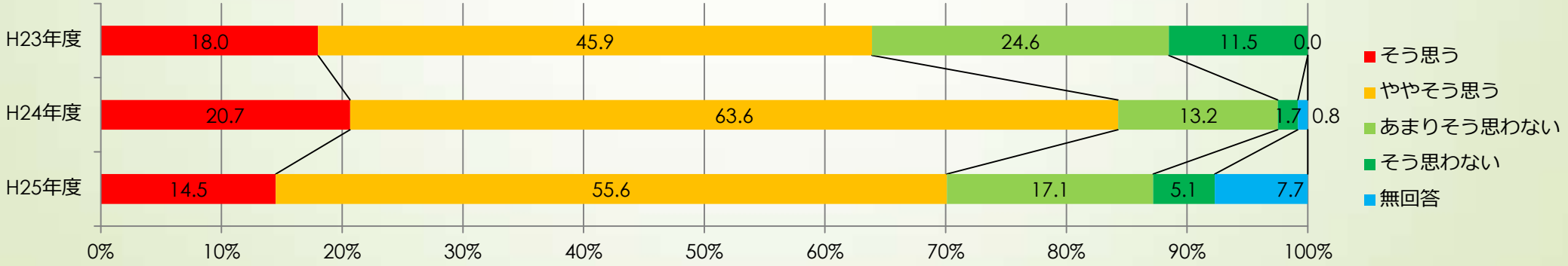
インデックス調査　3年間の比較　④

上司についての項目は概ね良い

8.上司はあなたの考え方を良く聞いて理解しいる。



22.勤務表作成時に個人の希望が通りやすい。



今後の課題

時短職員や夜勤免除者の増加に伴う課題

夜勤時間72時間の厳守	• 夜勤専従者の活用 • フレックスタイムの検討（夜勤時間16時間より短時間へ）
時短職員の不足時間数の業務カバー	•自部署だけでなく看護部全体の施設基準死守 •職種間の壁を無くした協力体制の工夫
長期休暇の実現	•リリーフ体制の確保 •長期休暇のとり方に関するルール作り

ご清聴ありがとうございます。